

●発行／(公社)秋田県診療放射線技師会 〒010-1106 秋田市太平山谷字中山谷247-32 TEL・FAX(018)838-3231
●発行責任者／豊嶋 英仁 ホームページ <http://www.aart.jp/> E-mail: akita@aart.jp



巻 頭 言

『 告示研修の概要と受講のお願い 』

(公社)秋田県診療放射線技師会 会長 豊嶋 英 仁

診療放射線技師法の改正により診療放射線技師免許をアップデートするための告示研修が開始されることになりました。

本稿では経過を整理しながら概要を解説し、受講の推進について述べます。

令和3年5月28日に

『良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律』が公布されました。

その中で、タスク・シフト/シェアを推進し医師の負担を軽減しつつ、医療関係職種がより専門性を生かせるように各職種の業務範囲の拡大を行うこととされ、診療放射線技師法の改正(以下、改正法)も含まれました。(医政発0528第1号)

令和3年7月9日に

『診療放射線技師法施行規則等の一部を改正する省令』(以下、改正省令)が公布されました。

(医政発0709第7号)

来る、令和3年10月1日には改正法ならびに改正省令が施行されます。

改正法および改正省令により業務拡大した行為5項目は以下です。

ア) 静脈路に造影剤注入装置を接続する際に静脈路を確保する行為。

イ) 静脈路に放射性医薬品を投与するための装置を接続する行為。

(静脈路を確保する行為を含む)、
当該放射性医薬品を投与するために当該装置を操作する行為、当該放射性医薬品の投与が終了した後に抜針及び止血を行う行為。

ウ) 動脈路に造影剤注入装置を接続する行為(動脈路確保のためのものを除く)

及び造影剤を投与するために当該造影剤注入装置を操作する行為。

エ) 下部消化管検査のために肛門に挿入したカテーテルから注入した造影剤及び空気を吸引する行為。

オ) 上部消化管検査のために鼻腔に挿入されたカテーテルから造影剤を注入する行為及び当該造影剤の注入が終了した後に当該カテーテルを抜去する行為。

改正法の規定に基づき、
厚生労働大臣が指定する研修
(公益社団法人 日本診療放射線技師会(JART)が
実施する告示研修)の受講が、診療放射線技師免許
の有資格者に義務化されました。

告示研修は、
基礎研修(e-learning700分)と
実技研修(385分)で構成され、基礎研修を修了
することで実技研修に進みます。

基礎講習は、
令和3年7月31日より受講申込みが開始されます。

実技研修は、
都道府県技師会がJARTの指導に従い地域開催し、
今年度は、10月1日以後に1回、
翌年度からは、年に数回開催する予定です。

実技研修の1回あたりの参加数は、48名以内に
限定されます。実技研修の日程は、順次、JARTおよび
都道府県技師会から広報します。

告示研修の詳細情報や受講申込み方法は、
JARTのホームページ
“診療放射線技師法改正告示研修特設サイト”に
掲示されます。定期的に確認をお願いします。

受講申込み方法は、会員および非会員ともに
同じ方法です。

改正法が施行される令和3年10月1日以後には、
告示研修を修了した診療放射線技師は、業務拡大
5行為を実際の患者に対して行うことができます。

但し、勤務先での業務拡大行為の認知とともに、
医師による適切な指導監督体制の下で行わせる等の
安全確保を十分に図る必要があります。

本会としては、県内の全ての診療放射線技師が
受講出来るように対応して参ります。

告示研修は5年間を予定されています。

基礎研修を早めに受講し、実技研修は計画的に
受講することを勧めます。

ご不明な点は、本会ホームページの

“お問合せ”からも承ります。ご利用下さい。

最後になりますが、すべての診療放射線技師が
対象になる告示研修の受講をお願い申し上げます。

参考：

JART診療放射線技師法 改正告示研修 特設サイト
<http://www.jart.jp/index.html>

功労賞の表彰



功労賞を受賞して

かづの厚生病院 川 又 渉

第75回秋田県診療放射線技師会総会にて表彰をいただきまして、会員の皆様、誠にありがとうございます。秋田県診療放射線技師会との関りを考えますと、地元秋田に戻って来から、引き続き何の気なしに秋田県診療放射線技師会に入会しました。

技師会の行事に積極的に参加していたとは言えませんでした。職場の先輩から県北支部の会計を依頼され、任期を無事に全うできたと思った矢先に、県理事を打診されたことが私の理事としての始まりでした。

始めの任期は、平理事として何をしたわけでもありませんでしたが、当時の会長に、JARTの教育委員や当時のJARTシステムのアカウント集計委員を打診され、2期目で情報部長を務めることとなりました。現豊嶋会長が立ち上げたホームページをカスタマイズしながら情報配信やホームページのリメイク等を14年間携わらせていただきました。

私のパソコンの購入動機は、当時からJRAのPAT会員として(秋田に来る前から)秋田に戻っても馬券が買いやすいように、という不純なことでしたので馬券を買うために通信環境を整えたり、当直の時にはmoperaを利用したりとせこせこやっていたことを思い出します。購入当初はWin3.2が主流で、インストールもMS-DOSやWin3.0Aから始める、という時代で1.44MBのFDを何枚も何回も抜き差ししてインストール作業をした記憶が懐かしいです。

理事に就任した頃はWin95からWin98、Win2000を経ていましたが、ホームページや集計データベースなどの仕事をこなしていくうちに現状少しばかりは扱えるようになったのかなと感じております。

情報委員長14年間の相棒は、ホームページビルダーとFFFTPでした。(たまに浮気をして他のソフトも使いましたが)

支部役員時代に矢嶋会長から、何かしらの期待のお言葉をいただいた記憶があります。ものすごく圧迫感?存在感?のある方で受け答えも緊張していた記憶しかありません。相模会長、土佐会長、藤原会長、そして豊嶋会長と歴代の会長からは色々なことを教えていただきました。また理事の方々、諸先輩方からのご指導ご意見をいただきながら気付けば令和3年度末で22年(支部含む)になります。

いま一つだけ言えるとすれば、技師会に携わっていなければ自分がここまで(まだまだですが)成長はできていなかったことでしょう。そういう意味では良い環境に恵まれたと感じております。

県理事20年の節目にこのような賞をいただき、本当にありがとうございました。まだまだ若輩者ではありますが、微力ながらも会のお役に立てたらと思っています。

この度は誠にありがとうございました。

今後とも皆様のご協力を得ながら、秋田県診療放射線技師会の発展の一助となれるよう精進してまいります。

功労賞の表彰



功労賞を受賞して

市立角館総合病院 加 羽 馨

この度は、秋田県診療放射線技師会の豊嶋会長並びに理事の皆様方の推薦をいただき名誉ある功労賞を受賞することができ大変光栄に思っております。

この賞をいただくことができたのも職場のご理解と会員の皆様のご協力のおかげと感謝しております。

診療放射線技師を目指して高校卒業後に上京し、夜間の専門学校に通いつつ、昼は検診のアルバイトをする生活を3年間送ってきました。卒業後は地元に戻り個人病院に就職できましたが、免許は取得したものの全くの素人であり、ましてや一人職場ということも重なり毎日が不安の連続でした。そんな中、秋田県診療放射線技師会への入会のお話を頂き、他施設の方々のお話しを伺うことのできるチャンスと思い即入会させていただきました。それからは日常業務で経験する問題点の解決方法をはじめとして、現場でしか得られない生の声を多くの方々から聞くことができるようになりどんなに心強く感じたことかわかりません。それから30数年が経過した平成24年に土佐会長の下で初めて理事をやらせていただくことになり、今度は自分が会員の皆さんに情報を発信する立場となりました。以後、藤原会長、豊嶋会長の下でも事業の企画、運営に当たらせていただきました。8年間の理事在職中の平成28年から4年間、県南支部

長も務めさせていただきました。頼りない支部長ではありましたが、事務局はじめ支部役員のお力をお借りしながらどうにか役目を果たすことが出来ました。

一つ心残りなことは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い任期4年目の集大成である最後の支部総会を開催できなかったことです。本来であれば苦労を共にした役員をねぎらい会員の皆さんには感謝を伝える場でもあったわけですが、何時かお礼を伝える場を持てる日が来るのを願っています。

今年度は、医師の働き方改革に伴い診療放射線技師業務拡大に向けた統一講習会が予定されています。それに加え県独自での事業も目白押しですが、コロナ禍の中で各種イベントの開催にあたっては多くの問題を抱えていることは皆さんもご承知のことと思います。豊嶋会長並びに理事の皆様のご苦労には頭の下がる思いでおります。私は昨年定年退職を迎えましたが、再任用職員として現病院でお世話になっております。微力ではありますが一会員として秋田県診療放射線技師会の為に何かお手伝いが出来ればと思っております。これからも今まで以上のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

最後になりますが秋田県診療放射線技師会のますますの発展を祈念して私からの受賞の報告とさせていただきます。

功労賞の表彰



功労賞を賜り

羽後町立羽後病院 小野 要

この度、公益社団法人秋田県診療放射線技師会功労賞を賜りましたこと、まことに光栄に存じます。役員の皆様の日頃の会務に敬意を表しますと共に、心から感謝を申し上げます。

振り返りますと、2000年から9期の支部役員を務めました。請われるままに末席を汚しておりましたが、先輩方にお教を頂きながら仲間と共に学術大会を立ち上げるなど懐かしく思い出されます。また、任期の中では2期の支部長を含め4期を県の理事として事業のお手伝いをいたしました。この期間には公益法人格取得という大変な事業があり、当時の土佐会長をはじめ、中央の理事の方々は大変な御苦勞をされました。

この期間の私は、学術研修会としてCTを担当していましたが、内容によっては全然人が集まらないという苦い経験もありました。しかし大変貴重な経験になったと感じております。

現在は医療法一部改正に伴う放射線安全管理体制整備にむけた研修・支援、放射線技師法改正に伴う告示研修の準備など会務がさらに厳しくなると思われま。コロナ禍で日常の診療業務も緊張を強いられる中、役員の皆様、会員の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

私も一会員として、地域医療へ少しでも貢献できるよう研鑽して参る所存です。



奨励賞の表彰



奨励賞を受賞して

秋田県立循環器・脳脊髄センター 石田 嵩人

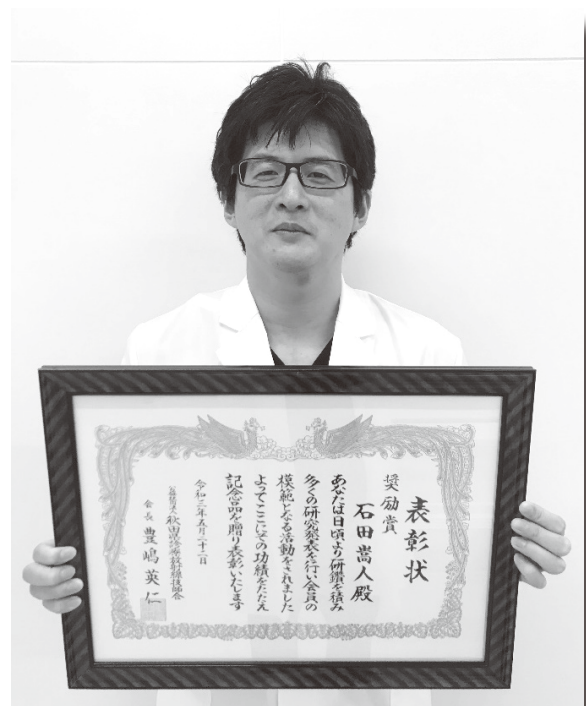
このたびは、秋田県診療放射線技師会奨励賞を授与していただき、大変光栄に思います。

私はこういった賞とは無縁だと思っていたので授賞の連絡を頂いた際は大変驚きました。そんな私が奨励賞を頂けたのは日ごろ指導してくださる職場の皆様方のおかげです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

私の研究活動の始まりは当時技師長であった豊嶋会長からテーマを与えられた「T1-SPACE法の画質評価」を県技師会で発表したことでした。豊嶋さんからご助言をいただきながらなんとか発表することができましたが、脳研の予演会は本番よりも厳しいと思ったのを今でも覚えています。その後はMRIの研究からは離れてしまいましたが、それから先輩方のご助言を頂きながらCTやアンギオの被ばくなど全国規模の学会での発表も含めて学術活動を続けていくことができました。

最後になりますが技師会員として、また医療画像情報研修会委員として技師会活動に携わらせていただいているので微力ではありますが技師会の発展に貢献していけたらと思います。

今後ともよろしくお願ひ致します。



奨励賞の表彰



奨励賞を受賞して

秋田大学 医学部附属病院 吉田 博

この度は、秋田県診療放射線技師会奨励賞の表彰を頂き、感謝申し上げます。

技師会の活動としましては、2018年度から中央支部の運営委員として活動に参加させていただいており、少しでもそのことが評価されたのであればうれしく思います。

自分が技師会の活動をしている中で最もよいと思う点の1つとして諸先輩方や同世代との交流を深められるということがあります。もちろん職場の先輩方から学ぶことは多くありますが、一施設のやり方に捕らわれず広い知見を持つことは必ず長い技師人生の糧になると思います。

活動の中で一番印象に残っていることとしては(公式とは言いにくいのですが)中央支部の活動の一環として、当時支部長であり職場の上司でもあった谷口理事にわがまを言い、20代・30代限定の交流会の場を設けたことです。「若手の交流の場が少なすぎる」「もっと他施設の技師と交流を持ちたい・持たせたい」という私の意向を快諾していただいた谷口理事には大変感謝しております。

数年前、LATITUDEに「巨視ベクトル」という豊嶋会長の巻頭言が掲載されておりました。自分もMRIをメインに就業しておりますので少し引用させていただきたいと思っています。

巻頭言では秋田県の技師会員構成は好ましい状態(巨視ベクトル)であると述べられておりました。しかし、折角の巨視ベクトルも周波数が乱れるとうまく信号を引き出すことは出来ません。技師も世代により考え方はバラバラです。世代ごとの意識を統一させること、更には世代間の思考のギャップを極力なくすことで理想的な共鳴現象を起こし大きな信号を発信できているのだと感じています。そしてその信号を生み出すために技師会の活動があるのだと思っています。

自分自身、新人の頃は割と人見知りです。初めて技師会で研究発表したときは足がガクガク震えるような小心者でした。ですが入職4・5年目で携わったマンモ班を始めとする技師会の活動や様々な交流を経験したことで、このような賞まで頂けるようになりました。

この先も諸先輩方の協力を得ながら同世代・異なる世代との交流を重ね、研究・発表も然ることながら、日常の撮像技術・画像向上につながる活動に少しでも貢献できれば幸いです。

今後ともご指導のほどよろしく願い申し上げます。

奨励賞の表彰



奨励賞の受賞をうけて

由利組合総合病院 菅原 康 紘

この度は、令和2年度秋田県診療放射線技師会学術奨励賞を賜りまして、誠にありがとうございます。この様な名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。

受賞にあたり、ご推薦いただきました秋田県診療放射線技師会会長、副会長、並びに理事の皆様、心より感謝申し上げます。また、由利組合総合病院の皆様、他施設の皆様のご指導ご協力の賜物であると存じております。

平成17年に診療放射線技師として由利組合総合病院に入職し、15年が過ぎましたが、思い返しますと、一般撮影・CT・MRI・透視・血管撮影・RI・放射線治療と多岐にわたるモダリティを使いこなす先輩方をみて圧倒された記憶があります。早く一人前の技師になりたい、はやく先輩方のようになりたいと思いつつも、当時は日々の業務をこなすことで精一杯でした。目の前の一つの仕事に向き合い、一つずつ仕事をこなしていくことしかできませんでした。継続しているうちに仕事には慣れましたが、まだまだ研究や発表を行う余裕はありませんでした。

平成20年、技師になり4年目の年に秋田県診療放射線技師会中央支部の役員(運営委員)になったことが一つの転機となりました。中央支部の活動や運営委員の皆様との関わり合いを通じて、研究や発表が自身のスキルアッ

プにも施設のレベルアップにも重要であると感じるようになりました。また、他施設の皆様と繋がることで様々な情報や経験を得ることができ、仕事にも自信をもって取り組むことが出来るようになったと思います。

目的意識の持ち方や自己研鑽も、もちろん大切ですが、人との繋がりが自身の成長のためには非常に重要であると感じておりますので、今後も色々な人と出会い、様々な知識や技術を吸収したいと思っております。

私自身は、まだまだ特別なことは何一つできませんが、研究や発表が、日々の仕事に生かされるよう、秋田県の放射線治療の発展のためにお役に立てるよう今後も精進していきたいと思っておりますので、今後とも皆様方にはより一層、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

今の私の基礎となっているのは、由利組合総合病院の皆様、秋田県診療放射線技師会の皆様、並びに放射線治療に携わられている皆様によって支えられているものであると思っております。

最後になりますが、この場を借りて御礼申し上げます。

特別賞 ロゴマーク最優秀賞



AARTロゴ採用

かつの厚生病院 浅野 かおり

この度、秋田県診療放射線技師会が募集していたロゴ企画に応募し、光栄にも採用していただきました。イラスト作成や画像編集が嫌いではない性分ですので、興味がわき、挑戦してみようと思立ちました。帰宅後の空いた時間にパソコンをいじり、画像処理ソフトとにらみ合いながら作った作品です。

コンセプトは秋田県らしさ。ロゴを見たときに「確かに秋田県らしいよね」と思ってもらえること。多くの人の目に触れることを踏まえ、秋田県らしさとは何だろう、わかりやすく親しみやすいものは…と思索した末、やはり秋田県なら秋田犬だろうという結論に達しました。空前の秋田犬ブーム、とまではいかないものの、テレビの動物番組で某有名人の家族が日本犬の一種として飼っている様子が映されたり、海外の有名フィギュアスケーターが大館市から秋田犬を贈られて「マサル」という名前をつけ、その愛らしい姿が世界的に報道されたり、日露共同制作で秋田犬関連の映画が最近公開されていたり。秋田犬は秋田県の“かわいい”の代表といっても過言ではない。ならば秋田犬しかない。というわけで、秋田犬をメインシルエットにすることに決めました。更に私たちが誇るべき豊かな自然もアピールには欠かせません。これを県の木である秋田杉の葉を添えることで表したつもりです。そしてどんな場面でも使い勝手の良い

よう、あえて配色を少なくして赤と黒の2色としました。

シンプルに、かつ秋田県のイメージが分かりやすく伝わるロゴになったのではないかと思います。

今後は、秋田県診療放射線技師会の活動と共に、このロゴが浸透し、貢献できるよう祈るばかりです。

採用ありがとうございました。



第81回 定時社員総会 開催報告

JCHO 秋田病院 畠山 翔

令和3年5月22日(土)秋田市にぎわい交流館AU(あう)にて第81回定時社員総会が開催されました。新型コロナ感染拡大防止を考慮して、Web形式と会場を使ったハイブリッド方式での開催となりました。

総会に先立ち表彰式が行われ、功労賞4名・奨励賞3名・ロゴマーク優秀賞1名が紹介表彰されました。定刻より柴田副会長の開会の辞により、定時社員総会が開会されました。

はじめに、資格審査委員、総会運営委員が選出され、続いて豊嶋会長より御挨拶いただきました。資格審査委員長より総社員の過半数の出席(Web参加、委任状、議決権行使書を含む)を確認し、本会が成立したことが報告されました。

次に、総会運営委員長より総会運営にかかわる事項が説明され、議場に対し議長の選任方法が諮られ、参加会員より一任の声がり、1名の会員が議長に任命されました。議長により開会宣言が行われ、その後、総会役員が任命承認の後、各議案の審議に入りました。

議長の適切な進行で、各事案も会場参加者、web参加者全員賛成、委任状多数にて承認されました。議長による閉会宣言、解任の後、川又副会長の閉会の辞にて、定時社員総会は無事に終了しました。

今回、新型コロナ感染拡大防止を考慮して、定時社員総会初のハイブリッド方式での開催となりました。会場から映像配信音声等小さなトラブルはありましたが無事円滑に終了することができました。感染予防対策をしながら総会運営に携わっていただいた皆様ありがとうございました。

今総会に参加して下さった会員の皆様、委任状・議決権行使書を提出していただいた会員の皆様に深く感謝を申し上げます。



令和3年度 秋田県診療放射線技師会 学術大会 開催記

秋田労災病院 村田 崇

令和3年5月22、23日に、令和3年度秋田県診療放射線技師会学術大会が開催されました。

それに伴い、3題の講演も行われました。

今年度は、コロナ禍の影響もあり、にぎわい交流館AU(あう)の多目的ホールを発信会場とした、Web併用のハイブリット形式で行われ、16題の会員発表がありました。

今回は、両日ともに110名以上の参加があり、ほとんどの会員がWebでの視聴となりましたが、自宅でも参加できるというメリットもあり、今後もWeb形式を望む声が多いと聞いています。

講演は、演者が哇元将吾衆議院議員・上田克彦JART会長・加藤京一JART読影分科会会長と豪華な顔ぶれでした。これもWebだから実現できたのではと思います。御三方には、これからの技師の未来像や読影の補助について熱く御教示頂き、視聴した会員にとって非常に参考になったのではと思います。

今回のハイブリット形式の開催で課題もいくつかありましたが、今後の開催に反映出来ればと思います。



乳房撮影技術研修会に参加して

北秋田市民病院 鈴木 恵美子

6月13日に令和3年度乳房撮影技術研修会がweb開催され、参加させて頂きました。

始めに市立秋田総合病院の高橋奈々子会員よりDRLs2020の解説が行われました。DRLs2020ではマンモグラフィに臨床データを用いた平均乳腺線量が新たに加わりました。自施設での臨床データをもとに平均乳腺線量の算出方法や平均乳腺線量のDRL値との比較検討結果を詳細に解説して頂きました。当院の平均乳腺線量はDRL値を上回るものではありませんでしたが、画像評価やDRLs2020に表記されている中央値との比較と引き続き検討を行っていきたいです。

続いてJCHO秋田病院のリンパ浮腫保険診療士・金田悦子先生から『体験から伝えたいがん患者のこころとからだ～リンパ浮腫を中心に～』の講演が行われました。

金田先生は看護師として働いているなか乳がんにかかり、治療後復職してからリンパ浮腫保険診療士になられたそうです。自己検診によってしこりに気づき受診されたと同じ、自己検診の重要性を改めて実感しました。さらに化学療法の不安や恐怖の感情、副作用、リンパ浮腫になる仕組み、リンパ浮腫の治療方法等、普段なかなか知り得ることのない情報や貴重な体験談を伺うことができました。最後に患者としてのお願ひ、孤独を感じさせない・基本的な配慮を怠らないが挙げられました。普段の業務では忙しさに捕らわれ患者への配慮が欠けてしまわないように今一度気を引き締めてマンモグラフィ検査に携わって行きたいです。



令和3年度 第1回 放射線安全管理セミナーが 開催されました。

令和2年度から引き続きWeb研修会として、令和3年6月12日に研修センターにおいて令和3年度第1回放射線安全管理セミナーが開催されました。研修センターでは3密をさけ、感染に配慮し十分な換気の元で行われました。今回は43名の参加者に対し、講演の配信を行いました。リモートでのセミナーも回を重ねるたびに慣れ、ほぼトラブルなくスムーズに配信することができたのではと思います。

今回の研修内容ですが、眼の水晶体の被ばく限度の見直しが行われた電離則改正の内容を中心にセミナーを開催いたしました。

まずは医療法に基づいた診療用放射線の安全利用のための指針運用に関するアンケートの報告をしていただきました。各施設における運用に向けて、管理業務に役立てていければと思います。

続いて、シンポジウムとして電離則改正についての現状を3施設より報告していただきました。各施設における線量管理、防護の現状について知ることができ、どのような対応をしていけばよいか、会員の皆様にも情報提供できたのではと思います。演者の皆様においては、頂いた質問について解説と解釈を丁寧にしていただいたことで、理解を深めることができましたと思います。各演者の方々にはご協力いただき誠にありがとうございました。

特別講演では、竹井泰孝准教授より「眼の水晶体に係る放射線防護の在り方」というテーマでご講演いただきました。

電離則改正に伴い見直された水晶体の防護について非常にわかりやすく解説いただき、防護の必要性、重要性について理解が深まったように思われます。

コロナ禍もまだまだ落ち着く兆しが見えず、Web形式でのセミナー、講習会が多いことと思います。今回、多数の会員の皆様にWeb形式のセミナーに参加していただくことができたことは、これからの事業展開に向けて良い機会であったと思います。今後とも、会員を始め県民の皆様の力となれるよう鋭意工夫し取り組んで参りたいと思います。

(文責：畠山)



会 員 情 報

【会員数】

(2021年7月15日現在)

356名(正会員356名、名誉会員3名)賛助会員:23社

※お届け事項に変更がありましたら、JART(日本診療放射線技師会)のホームページより「JART 情報システム」にログインして、お手続きをお願いします。

お知らせ

～ JART (日本診療放射線技師会) 30・50年永年勤続表彰のご案内 ～

AART(秋田県診療放射線技師会)の表彰規程において、会員の永年(30・50年)勤続を表彰する制度があります。
例年11月頃にAARTより推薦し、翌年春に表彰が決定致します。

表彰者推薦の要件

- ① 診療放射線技師籍登録後、放射線技師業務に30年以上(あるいは50年以上)従事した会員。
- ② 本年度までに会費未納の無い会員。
- ③ JART入会后、連続15年以上経過した会員(再入会は新規入会とみなす)。
- ④ 50年勤続表彰者は、既に30年勤続表彰を受賞した会員。

今年度30年勤続表彰の対象となる会員は、**技師籍登録 1991 (平成3)年度の会員**です。

例年、対象となる会員には、メールまたは電話等でご案内しております。

表彰を希望される会員は、JARTのホームページトップ画面より/「各種様式」/「表彰推薦に必要な書類」より「様式5」をダウンロードして、履歴をご記入の上、9月末日まで下記宛てに御郵送願います。

ご提出後AARTにて推薦された会員は、来年秋に開催されます日本診療放射線技師学術大会にて表彰されます。

なお、表彰式当日に出席できない方には賞状と記念品が郵送されます。

過去に対象者(上記太字以前に技師籍を取得されている会員)でありながら表彰を希望されなかった方でも要件を満たす方は推薦の対象となりますので、ご一報いただけますようお願い致します。

永年勤続表彰に関するお問い合わせ、履歴書の郵送先
〒010-1106 秋田市太平山谷字中山谷 247-32 TEL 018-838-3231
秋田県診療放射線技師会 谷口 直人(表彰担当)
E-mail: qoxzq07760@yahoo.co.jp または、gucchi1129@gmail.com

おねがい

年会費の納入は、お済みですか？ 会費納入期限は、2021年9月30日(木)です。

期限までに会費を納入しない場合には、会誌の送付や、講習会受講などの会員特典を一時的に停止されます。
いま一度お確かめの上、未納の方は、早めのお手続きをお願い致します。

編 集 後 記

■ 昨年の3月にWHOが「新型コロナウイルスはパンデミックと言える」と表明してから早くも1年半になろうとしていますが、依然として収束の目途が立たないどころか感染力の強い変異株への置き換わりが進んでいます。ワクチン接種を希望する国民が、一刻も早く2回の接種を終えて感染が収束することを願うばかりです。

感染防止対策の観点から各種学会・講習会はWebでの開催が主となり、遠方で主催する催し物へも気軽に参加できるようにはなりましたが、主催者・演者・発表者の立場からすると参加者の反応を察することが難しい側面もあります。しかし、私たちはこの1年半の間に得た新しいコミュニケーションの方法をより一層活用していきたいものだと思います。皆様からのご協力により、通巻69号の情報誌「LATITUDE 40N」を発行することが出来ました。

原稿をお寄せいただいた方々、日々お忙しいところありがとうございました。

(小)